

2026年1月6日

京都府農林水産部農政課食の安全・食育係 御中

(連絡先)

京都市中京区烏丸通二条上る蒔絵屋町 258 番地

コープ御所南ビル 4階

京都府生活協同組合連合会

専務理事 鯉江 賢光

電話：075-251-1551 FAX：075-251-1555

「第5次京都府食育推進計画」中間案についての意見

第5次京都府食育推進計画がさらに充実したものとなるように、以下意見を述べさせていただきます。

●6・7ページ(2) 目標未達成の状況について

→朝食欠食や食習慣の乱れを「家庭の意識」に強く依存しているが、共働き・単身世帯が増える中で“そろえたくてもそろえられない”現実がある。冷凍商品・時短商品・ミールキットの需要が急増しているが、そうした現代的な食生活への理解と、実際に時短で健康的な食生活を実現するための具体的な提案が必要と考える。

→ウ 学校給食に地場産物を増やす目標も掲げているが、現場の人手不足・コスト増への配慮が見えない。栄養教諭を各校に一人配置することや、配置基準を見直して、学校単位で食育やアレルギー対応、宗教食など丁寧な対応が必要である。給食に有機農産物を使用する流れが全国的にも広がってきている。大きな単位では地場の有機野菜を納品することが難しい農業者でも、自校方式や親子方式を取っている給食センターであれば可能になるのではないかと。子どもが減少する中、そういった意味でもセンター方式からの転換を期待する。

●5ページ(5) 食の生産等

11ページ(5) 持続可能な農林水産業・食品産業を支える食育の強化

→生産現場の理解を深める取組みは重要だが、担い手不足の根本にある収入・労働条件・後継者問題などについても、併せて検討される余地があるのではないかと。食料の「合理的な価格形成」というが、「価格を上げれば解決」というほど単純ではなく、消費者の家計も厳しい、小売・流通のコストも上昇、価格転嫁が難しい構造といった現実があるため、生産者の負担を価格だけで吸収するのは難しい。

そのため、直接支払いのような仕組みは必要性が高いと考える。市場価格とは別に、生産者を支える仕組みがあれば持続性が高まるのではないかと。農業が続けられるように、社会全体で支える施策を盛り込むことを期待する。

○11ページ(3) 生活自立期を中心とした大人の食育の強化

・大学や職場等で朝食や主食・主菜・副菜のそろった食事が入手しやすい等、健全な食生活を実施しやすい食環境づくりを推進します。

→大学生協では父母会の支援のもと、100円（税込み）で朝食を提供する取組み（百縁朝食等）が行われている生協もある。このような取組みをすべての大学、社員食堂がある企業に広げることができれば、若者世代の健全な食生活を実施しやすい食環境づくりにつながると思われる。大学生協も巻き込んで取組みが広がることを期待する。

○13 ページ ○生産者などと府民との交流などの促進

・援農隊の活動を促進し、農林水産業の生産現場の体験を通じて食に対する意識を向上するとともに、次世代の担い手の確保につながる取組を進めます。

→一般的な仕事であれば、その仕事をしている会社に就職すれば可能だが、農業や水産業に就きたいと思っても簡単にできるものではない。食を支える生産現場での担い手不足は深刻である。農林水産業に興味を持った人が、躊躇なくその担い手として活躍できるような具体的な支援を期待する。

○23 ページ 計画の目標

・家庭における食育の推進

第4次食育推進計画において、家庭における食育の推進で掲げた数値目標がいずれも未達成となった。令和6年度実施されたアンケート調査で、食べる回数を増やすために必要なことを聞いたところ、食べる時間・手間・費用に余裕が必要との意見が多い状況とのことだった。いずれも難しい課題ではあるが、第5次食育推進計画では数値の改善が図られるように、具体的な対策がなされることを期待する。

以上